

# 千二百年変わらぬ 空海が伝えた密教

空海が説いた密教とは、大日如来を主尊する教えである。大日如来は仏法の真理そのものであり、智慧の光で世界をあまねく照らし、人々の苦しみや煩惱といった闇を取り除く。従来は死して仏となるものであったが、老若男女を問わず生きていくままに仏になれる。「即身成仏」と空海は説き、画期的な教えとして、当時は驚きをもって迎え入れられた。

また全てのものには「いのち」が宿り、人間や鳥、樹々さえも平等で、共にいきる「いのち」である。そして互いに助け合うことが大切だとも説いた。この「共利共生」という考えは、万物に神々が宿るといふ日本古来の考え方にも通じ、空海は仏と同様に神も崇めた。1200年を経た今も変わらない空海の想いはこれからも生き続ける。

## 「阿字観」

あじかん



阿字観(あじかん)は、密教の根本經典の一つである「大日経」において説かれる瞑想法であり、空海によって伝えられた現存する数少ない遺法の一つ。「阿」という梵字は、万物の元という意味を持ち、「阿」字に精神を集中し瞑想が深まれば悟りが実現するといわれている。



阿字観本尊  
丸い月輪(がちりん)の中に蓮華が描かれ、阿字観本尊の梵字は「大日如来」を表している。

## 「結縁灌頂」

けちえんかんじょう



自身が仏の世界に入り、曼荼羅に向かって華を投じることによって仏との縁を結ぶ、高野山で行われる厳格な儀式の一つ。華の落ちた所の仏と縁を結ぶところから結縁灌頂の名がある。灌頂という儀式は、心の中にある仏の心と智慧を導き開く儀式として、一般の方も受けることができる。

## 「写経」

しゃきょう



写経とは教典を書写することであり、古来より仏法を広める重要な僧侶の修行のひとつであった。また写経することに功德があることから一般にも広がり、東京で行われた高野山カフェをはじめ、各地で写経教室が開かれるなど人気を集めている。



写経体験  
一字一句書き写すことで雑念が払われ、今日では精神集中とリラクセスできると注目を集めている。

Artistic Sanctuary



投華得仏の華  
四季を通して美しいことから「しきみ」とも呼ばれる「華」。仏事によく用いるため寺院に多く植えられている。



Koyasan in Tokyo



住所 / 東京都港区高輪3丁目15  
電話 / 03-3441-3338

定期的に行われる阿字観体験会。毎回多くの参加者が集まる人気の教室。参加費無料

人と人との繋がりを  
誰もが安らぐ空間

「東京別院 / 結び大師」

高野山別院は、1673年建立された在番所で江戸時代は本山と幕府を結ぶ役目をもつていた。現在は高野山真言宗総本山金剛峯寺の別院。周りの堀はあえて低く作られ開放的で、敷地内の大きな木陰にはひと休みする親子連れの姿も。阿字観体験や写経会を定期的に開催しており、首都圏で高野山を感じる事ができるスポットとして、また心の拠り処として多くの人が訪れる。開創1200年にあたる平成27年には、別院の檀信徒の皆さんが高野山へ参拝する計画が進行中。



## 「密教法具」

柄香炉(えいろう)  
仏を礼拝供養する際に手にする柄の付いた香炉。身体を清め、邪気を寄せ付けないように香を焚く。



羯磨(かつま)  
三結符を十字に組み合わせた形。結界を護るために壇の四隅に置き、事行の成就を表す。



金剛鈴(こんごうし)  
修法中に用いる鈴。先端の形は独結符な5種類あり、写真は五結鈴。神仏を歡喜させたり、人間の心に宿る仏種を呼び覚ます。



金剛杵(こんごうし)  
古代インドで用いられた武器をかたどっている代表的な法具。三股の三結符は三寶を象徴する。



「どなた様でも、多くの方々に高輪結び大師へお参りして頂きたいと思っております」と語る東京別院の四之宮弘孝さん(左)。右は金剛峯寺の藪邦彦さん。

